

# できたしこルーテル 熊本地震支援活動報告

できたしこルーテル

2016年8月



日本福音ルーテル教会  
九州教区救援対策本部  
できたしこルーテル  
九州教区事務所内  
発行人：岩切雄太  
編集：竹田大地

誰かにではなく、

あの人に届ける支援

4月14日(木) 21時26分、  
熊本県熊本地方を震央とする  
地震が発生し、熊本県益  
城町で震度7を観測した。

北九州でも携帯の緊急地震  
速報の大きな音が鳴り続け  
ていた。そのような中、テ  
レビやネットの

地震情報を確認  
しつつ、九州教  
区の全教会へ安  
否確認及び被害  
状況を問い合わせ  
た。

次の日の昼頃  
までに届いた熊  
本・大分の教会  
からの報告は、  
「夜にいったん建  
物の外に避難し  
た」「水や電気  
がとまっている」  
「余震が続いてい  
る」というもの  
であったけれど  
も、全体として  
は大きな被害は

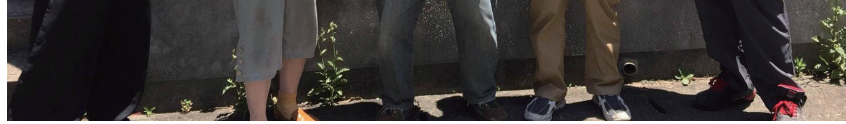
確認していないということ  
であった。だから、このと  
きはまた、支援の必要性を  
感じつつも、本教会等と協  
議し体制を整えた上で必要  
な支援を行おう、と考えて  
いた。

しかし、最初の地震から  
28時間後の4月16日(土)  
1時25分、同じく熊本県熊  
本の叫び声であった。

私は、この日  
本福音ルーテル  
教会九州教区救  
援対策本部の第  
1期活動報告  
を書くにあたっ  
て、じつは、こ  
のあとの文章が  
なかなか書けな  
いでした。

それは、私た  
ちはこの後、あ  
の意味迅速に組  
織(救援対策本  
部)を立ち上げ、  
次の日(17日)  
の夜には緊急支  
援物資(第一便)  
を届けたけれど  
も、「熊本に行

くのは日曜日(17日)の礼  
拝が終わってから」という  
躊躇があったことを認めな  
いわけにはいかなないから  
だ。  
「助けて」という仲間た  
ちからの声を直接聞きつ  
つ、すぐに助けに向かわな  
い自分を正当化していた、  
ということだ。道ばたに倒  
れている人の横を通り過ぎ  
た祭司やレビ人のように  
。この活動報告を書くに  
あたって、私は、熊本の仲  
間たちにひと言謝りたい。  
「みんな、ごめんかった。」  
さて、熊本には、14の教  
会(宇土礼拝堂/小国集会  
所含む)、2つの学校、12  
の幼保、11の施設がある。  
今回の地震に際して、「助  
けて」という声に最初に応  
答したのは、被災地にある  
これらの教会・学校・幼保・  
施設の仲間たちだった。私  
たちが熊本に入ったときに  
は、仲間たちによる避難所  
の活動、地域に必要な救援  
物資を届ける活動、休憩所  
(カフェ)としての活動、  
近隣の避難所の支援、地域  
支援活動等は既に始まって  
いた。



私は、この日  
本福音ルーテル  
教会九州教区救  
援対策本部の第  
1期活動報告  
を書くにあたっ  
て、じつは、こ  
のあとの文章が  
なかなか書けな  
いでした。  
それは、私た  
ちはこの後、あ  
の意味迅速に組  
織(救援対策本  
部)を立ち上げ、  
次の日(17日)  
の夜には緊急支  
援物資(第一便)  
を届けたけれど  
も、「熊本に行

がり必要な支援を行うこ  
れかとして、名前をもった  
特定のだれかにかかわって  
ゆく中で、必要な支援を拾  
い上げ行っていく、という  
ことであった。そう、そん  
な思いで、みなさんのお祈  
りを届けてきました。  
(山石雄太)



私たちは日本福音ルーテル  
教会九州教区救援対策本部  
は、それぞれの活動につな

は、名前をもった特定のだ  
れかとして、名前をもった  
特定のだれかにかかわって  
ゆく中で、必要な支援を拾  
い上げ行っていく、という  
ことであった。そう、そん  
な思いで、みなさんのお祈  
りを届けてきました。  
(山石雄太)

# かゆいところに

## 手がとどく支援を

四月の「熊本地震」直後、どこでもそうですが、個人から、益城町にある広安愛人のスペースが限られ、児童・こどもL. E. Cセ プライバシーも十分に確保され、避難所が設けられませんでした。そのような状況にあって、被災したルグループ（るうてる法人）が避難所から外へ出て、自由に語り合い、心を開き、支援活動を展開してきました。



活動の柱の一つは、カ Cセンターにご快諾いただき、敷地内にテントとプレハブを建て、そここに「ルター・メンパー」も、ここでたくさんの方と顔見知りにならなう名前前で、きめ細かい支援をこの方たちとは、避難所が閉鎖された（7月2日）後も引き続きかわりを持ち、今まさに、支援がはじまっています。また、私たちは震災直後から、住宅の片付け・掃除・



引っ越しや、崩れ落ちた瓦やブロックク塀などの処理など（延べ60数件）を行ってきましたが、地震発生から2か月間、私たちが被災者とお互いに顔の見える関係の中で、その方に必要な支援を行うことを大切にしています。これは行政の大規模災害ですから、公的なボランティアの力が足りない、かゆい所に手の届く、支援がなかなか最後になりましたが、この活動では牧野孝氏、東ゆきみ氏（国際協力NGOわかちあいプロジェクト現地スタッフ）お二人の常駐者



引つ越しや、聞き、各場所に向いて支援活動をしてきました。この活動では全国の皆さまから送られた掃除用具などが大変役に立ちました。報告したいと思います。地震発生から2か月間、私たちが被災者とお互いに顔の見える関係の中で、その方に必要な支援を行うことを大切にしています。これは行政の大規模災害ですから、公的なボランティアの力が足りない、かゆい所に手の届く、支援がなかなか最後になりましたが、この活動では牧野孝氏、東ゆきみ氏（国際協力NGOわかちあいプロジェクト現地スタッフ）お二人の常駐者

か回って来ない家もあり、上記のような作業は現地で喫緊の課題でした。そのため、対策本部では「ルター・学校・施設・幼保」のつながりを通してニーズをす。（池谷孝史）

### 室園教会

#### 子どもたちの

#### 居場所として立つ

室園教会は、幸い会堂に大きな被害を受けずにすんだものの、当初余震の続く中で、西川牧師は近隣の済々黌高校に避難せざるを得なかった。同避難所は、ボランティアの運営面で課題を抱えていたため、西川

被災地の親と  
子どものこころの  
ケア

ChildFund Japan ルーテル学院大学

また、熊本ルーテル幼児の先生方の協力を得、ルーテル学院大学との連携のもと「被災地の親と子どものこころのケア」小冊子を作成し、熊本県内の500園に配布することができました。この働きは、「被災後の子どもたちのこころのケア」へと継続していくこと（岩切雄太）



## 大江教会 教会の性格を 生かしながら

大江教会の動きは「私たちは被災者である」「まず自分たちのケア、その次に支援活動を心がけました。ママ・赤ちゃん応援プロジェクト」

教会に届きました。鹿兒島の伊集院パプテスト教会が鹿兒島のスーパーを回って買い集めてくださったので。また福岡の友達も届けてくださいました。教会員の家の片づけボランティア。先に先に計画をして、実行すること。教会は赤ちゃんを連れたママたちで溢れました。ルーテル大江教会にいれば赤ちゃん支援グッズはある」「大江教会の立野牧師が赤ちゃんを助けてくださる」とラインが流れました。来て下さった方々から情報を得て、お風呂から大雨、水害、洪水です。その他、連携プロジェクト。宇城光照寺・緊急支援としてオムツ、ミルク、離乳食、おしりふきティッシュ等の配布。まずは教会員の赤ちゃんに離乳食をお渡ししました。

へとつながりました。家に帰れない方々、車中泊の方々。心のケアのサポート。被災者支援物資支援。心の支援。大江教会で出来る。美味い珈琲とお菓子、被災地においての支援。フリースタイルのCafeとし、全。国からお菓子と珈琲などを届けていきます。(立野泰博)

## 健軍教会

### 避難所の働きを通して生まれたつながり

健軍教会は、地震当日の夜から地域の方々の避難所として用いられた。当初の課題は、水とガスと電話が止まって、トイレとお風呂が満足に使えなかったこと、食材や寝具が充分でないこと等であったが、わかちあい、譲りあい、工夫しあつて共同生活を続けた。幸い、すぐに動いて下さったルーテル教会の救援対策本部ほか、全国から支援物資を届けていただいたので、最大50名近い方々を受け入れた「健軍教会避難所」は、すべての方の行き先が決まって避難者さんがゼロになった5月末まで、無事にこの働きを継続



特に泉ヶ丘小学校避難所では、最大130食の炊き出しを7月4日の避難所閉鎖まで、毎週継続して行うことができた。(小泉基)



## 神水教会

### 地域に開かれた教会として

神水教会が罹災したのかねてから計画していた三期耐震工事の実施を決めた直後のことであった。すぐに敷地を同じくする慈愛園とともに救援活動を行ったほか、地域のカウンセリングルームに場所を提供したり、レインボーカフェの名でママカフェを運営する等の活動を行った。

熊本教会は、日頃から地域とのかかわりを大切にしている。今回の地震と、その後の集中豪雨にあつても、杉本牧師は地域の消防団員として、地域住民の安否確認や災害救援物資の配布など、地域の防災と災害救援の最前線に立つて奮闘してこられた。現在の熊本教会の最大の課題は、全国のルーテル教会のなかでも、歴史的象徴である教会と牧師館の修復の問題である。戦時中に焼失し、再建された歴史ある礼拝堂の補修工事のため、大きな支援を必要としている。(小泉基)



# 九州教区救援対策本部

## 「できたしこルーテル」メンバー紹介



岩切雄太牧師



竹田大地牧師



永吉穂高牧師



宮川幸佑牧師

## 国際協力NGOわかちあいプロジェクト

### 牧野孝氏・東ゆきみ氏のご紹介



山本光兄

まきの たかし  
牧野 孝氏

ひがし  
東 ゆきみ氏

とても頼りになる方です。

ルタバ（ルターバックス  
コーヒー）のアドナである東さん。

九州学院柔道部のOBである牧野孝さん。長年培ってこられた腕力を活かし、瞬く間に瓦礫を集めていかれる。ダンブに乗り、颯爽と集積所に向かう姿は、まさに癒し系の大柄なマスコットのようです。

また、優しく朗らかな性格であり、地元の方からの信頼もあつく、しっかりとニーズを聞き取り、必要な仕事を拾い上げてくださいます。

一日の働きを終えた後には、地元の子どもたちに柔道を教えに向かわれます。パワフルで、行動力があり、

避難所が開設されている間は、コーヒーを飲むためではなく、そのような東さんに会いに来られる方もたくさんおられました。

また、東さんは4人の子どものお母さんでもあります。お土産のスイカを切り分けた後、皮の白い部分を漬物にして振る舞われる節約家で、「肝つ玉母ちゃん」の一面も垣間見せておられます。（永吉穂高）

熊本では、たくさんの「ありがとう」の言葉をいただきました。場所は異なるうとも、お一人おひとりのお支えがあつたからこそ、「できたしこルーテル」として支援を続けることができます。共に重荷を担い、祈り続けてくださり、本当に有り難う御座います。

一段落はしたように見えようとも、先は見えないままです。これからも、祈りに覚えていただければ幸いです。

「人生の中断」という表現を、牧会の中でしばしば聞くことがありました。ケガや病気のために入院を余儀なくされた方々の言葉でしたが、あらためて災害に

も当てはまると気づかされました。被災された方々と接する中で、少しでも元の生活を



和田憲明牧師



山口邦久兄

この度の熊本地震により甚大な被害を受けられた方々に心からお見舞い申し上げます。

取り戻す一助になればと祈り、「できたしこ」活動して参りました。

物心共々支え、送り出していただければ幸いです。

箱崎教会の山本です。対策本部に教区の財務担当として参加させていただいています。

全国の教会や信徒の皆様のお祈りやご支援を今後も引き続きよろしくお願い致します。

九州教区事務所主事として主に会計面でお手伝いさせていただきます。

地震から3か月経過した今日、まだ多くの人が避難所の不自由で苦しい生活を余儀なくされていることを思うと胸が痛みます。

皆様方の上に神様の特別な顧みとお力添え、お支えがあり、一日も早い復興がなされますようお祈りするばかりです。

てくださったっている皆様に感謝申し上げます。酷暑が予想される今夏、祈りに覚えて

支援活動を始め1ヶ月が過ぎた頃に、白川事務局長が「誰かから（誰だったかな？）ルーテルは、教会・学校・施設・幼保の互助の働きが素晴らしいですね」と言われたよ」と話されたのを思い出します。

これは、言葉を変えると、「ルーテルはお互いに助け合う共同体ですね」ということでしょう。僕はこの言葉が素直に嬉しかった。僕たちは、誰かに助けられたり、誰かを助けたりしながら、大切なナニカを見つめるのだから。

今回の地震がもたらした、甚大な被害と被災した方たちの困難を前にして、わたし自身の働きはあまりに小さいものでした。働きたいと思えます。

後、まだまだ続く復興への道のりを覚え、祈り続けたいと思えます。



（永吉穂高）